

1 本校の使命

「自立した大人になるための基礎づくり」

※「自立」とは…経済的、精神的な自立に加えて、「学び」の自立を含む。

また、「独立」ではなく、他者と相互に関係を持ちながら自己を実現していく姿を自立と考える。

2 経営展望

「南中文化の向上」

学校に協力的な南中学区の地域文化を基盤に、生徒の将来の自立に向け価値のある生徒文化と教師文化の質を向上を目指す。

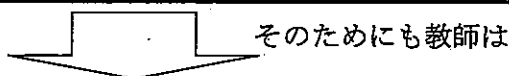
3 学校経営の4本の軸

校訓「自己を高めよう」のもと、生徒たちが、将来、自立した大人となるための基盤を身に付けるための教育活動を全職員で一丸となって展開していく。

自立した大人になるために

- | | |
|---------------------------------------|-----------------|
| (1) 教科の授業の学び合いの質を高め、意欲・コミュニケーション力を高める | → <u>学ぶ力</u> |
| (2) 帰属意識・有用感の得られる集団の中で温かな人間関係を築く | → <u>社会性</u> |
| (3) <u>心身共に健やかで、簡単にあきらめないこと</u> | → <u>体力と精神力</u> |

※ 将来の自立のために、主体的に課題を解決していく力を育成していく。



①授業力向上

- ・「学び合い」を通して学ぶことの達成感、充実感を感じさせ、将来の自立した学びにつながる授業を展開する。
- ・集団で課題を解決する場のある単元構想を練り、日々の授業、公開授業で実践する。
- ・生徒主体の学び・深い学びの場がある授業を意識した実践を日々の授業で積み重ねる。
- ・公開授業－授業日より執筆－教育論文による振り返りを授業力向上の研修の場とする。

②学級経営力向上

- ・目標に向けて協働できる集団（仲間）づくりを計画的に進める。
- ・リーダーとフォロワーを育て、帰属意識、有用感の感じられる集団を育てる。

③集団の中で、課題を発見し解決する力をつける

- ・授業、学級、部活動等、学校生活の様々な生徒集団の中で、計画・運営・評価の過程を経験させる。
- ・1年から3年へ段階的な系統性が生まれるように計画的な指導支援を行う。
- ・先輩から後輩へ引き継ぐべき南中の生徒文化を意識して指導支援する。
※リーダーを育てる（部活動キャプテン会・室長会・生徒会役員会・生徒議会）
※委員会活動（常時活動・南中祭への参画）

④まちづくりへの協働・中学生による地域貢献を進める

- ・南部まち協・高取まち協をはじめ、様々な地域の支援者に本校は支えられていることを教職員だけでなく、生徒たちにも自覚させる。
- ・中学生は、地域の一員である。地域と生徒・家庭をつないだり、中学生のできる地域貢献を考え、「まちづくり」の一役を学校が担いたい。
- ・防災、健全育成、協働の場と多忙化解消に向け協力を依頼できる領域を模索する取組を。
※生徒会参画の市防災訓練、リーダー研修会（地域）、ネットトラブル防止講演会

<めざす教師像・教師集団像>

- ・生徒の前に立ち、生徒を正しい方向に導く教師
- ・生徒の横に寄り添い、生徒の心をしっかり掴む教師
- ・生徒の後ろから、生徒の背中を押すことのできる教師

教師の存在、影響はこの多感な時期の生徒にとって大きい。一人一人の教師が生徒に信頼され、保護者からの信頼を得ることのできる教師集団でありたい。生徒の成長のために熱意と温かさをもって指導でき、きちんと教員としての職務を遂行できる教師は信用される。しかし、身なりや言動が乱暴、あるいはいい加減であったり、業務をきちんと処理対応できなかつたりすると信用は失われる。

信用されている教師の指導は、生徒や保護者に沁みいる。信用されていない教師の指導は、仮に正しい指導をしていても、沁みていかない。一人の信用失墜が全職員への信用失墜へとつながる。全ての教職員が信頼される教職員集団を目指す。

4 教育目標

校訓「自己を高めよう」をめざし、知、徳、体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる。

5 めざす生徒像

将来を見据え、
今の自分を作り上げていく生徒

真剣に学び合う生徒

けじめのある行動をする生徒

自ら心と体を鍛える生徒

6 経営方針

「将来を見据え、今の自分を作り上げていく生徒」の育成をめざす

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ○真剣に学び合う生徒 | ○自ら心と体を鍛える生徒 |
| ◆学びを広げ、深めていくことができる生徒 | ◆人のためにすすんで活動できる生徒 |
| ◆自分の思いや考えを発信できる生徒 | ◆あきらめずに挑戦しようとする生徒 |
| ◆相手の考えを自分の考えに生かそうとする生徒 | ◆自分の心体を慈しむ生徒 |
| ○けじめのある行動をする生徒 | |
| ◆心を込めてあいさつ、拍手ができる生徒 | |
| ◆身の回りの環境を進んで整える生徒 | |
| ◆自分で判断し、正しい行動ができる生徒 | |

○今年度の重点努力目標

- (1) 授業力の向上 (教師→教師)
 - ・「学び合い」を通して学ぶことの達成感、充実感を感じさせ、将来の自立した学びにつながる授業を展開する。
- (2) 学級経営力の向上 (教師→生徒・生徒→生徒)
 - ・「級訓」「学級目標」を明確にし、一人一人の個性を生かしながら、集団としての成長につながる学級経営を行う。
- (3) 集団の中で、生徒自身が課題を発見し解決する力
 - ・「生徒自治」の精神を継承・発展させ、学校生活全般にわたって、リーダーを中心に生徒主体で計画・運営・評価しながら活動できる機会、場を保障する。(生徒→生徒)
- (4) まちづくりへの協働・貢献 (地域←→生徒・教師)
 - ・まちづくりへの生徒の主体的な関わりの場を保障し、地域と協働して活動する中で、地域の一員としての自覚を高める。
- (5) 特別支援教育・不登校指導体制の充実
 - ・支援指導方針を再確認、全職員で共通理解し、特別支援教育・不登校支援を必要とする生徒の実態を共有し、段階的な指導を組織的に行う。
- (6) 教育基本構想の推進
 - ・2中、学区小学校とのつながりを意識し、教育基本構想推進事業を生かした取組を工夫する。
- (7) 多忙化解消の推進
 - ・生徒と教職員にとって、活動や取組の価値・成果とそれにかかる労力のバランスを考えながら、多忙化解消の具体策を見だし実践していく。